

すずむし

Vol 3 No 1

1953年1月

倉敷昆虫同好会

すずむし 第3巻 第1号

目 次

○	那岐山採集記	清水慶子	P. 1
●	鷹球のトンボ2・3について	水野弘造	4
●	ナツアカネの羽化期間について	安東瑞夫	4
●	神鹿のオナカサナエ	小野 洋	5
	会 報	(編集部)	5

原稿募集

★ 原稿募集いたします。昆虫に関する記事なら何でも結構、特に小さい方々の解説稿期待しております。ふらつて御投稿下さい。

★ 原稿は出来得る限り原稿用紙に、横書きにして下さいます様お願いいたします。

★ 願稿のメ切りは毎月5日です。

那岐山探集記

清水慶平



八月一日から二泊三日で那岐山に探集に行つた時のあらましを思いつくまゝにしてあります。

さなしい汽車の中に比べて那岐山のふもとでは就勢八人となり元是よく登りて行つた。途中天然記念物を見学、夕日シミの効くいる所があるからと云うのでリュックサックをおろして振りに行つた。みんな二匹は取つたらしい、雨を登り始めた、田んぼがなくなった所の林の中で、チヂンとチヨウシアサマウモシカを採り荒に進入している皆に追いつき、とくとし一つ行つた、ミヤマカラスアケハ、オナガアケハを採つたりクワタマバチの説明を聞いたりして宿である菩提寺についた先客が三個人居た、寺の前のアイチヨウ太き石の間に流れる清水を見て「から屋敷をとつた菩提寺から」と来た道を引さ返し途中で自己紹介をやり蛇淵に行く蛇淵に降りる少し前を井手さゝと私はとうとう具合か前の人達と離れてしまい、いくら「ヤーホーム」を呼んでも港の音は消えてしまつた、心細い、どこでいふかげんや遠るいつていると小野さんか噂には来て下さる、急な山坂を降りて水しぶきをかむりながら蛇淵に出た、実に壯大を眺めてある、中塚さんより蛇淵にまつめる伝説を聞きながらしばらくの間この天然の美の中に自分を矢ついていた、寝くなりこゝろあがりその辺を歩き採集した、アカヤマケラ、オホウラギンノウモン、コムラカキ、カカハクテウ、ホリバセ>リ、コチツバネセ>リ、アカタテハ等をいた、帰つているとうまてゴはゴは鳴っていたがとうとう夕立を降りし出し木の下に入ったが腹はむさぶにすすむぬれはつた、夕立がよみかけると中塚さんと妹さんは帰つて行かれた、なんだかさみしくなる、六人は菩提寺に帰つた、夕食をすませ昆虫の話に夜を明かした、楽しく歌を唄つた夜のはきはきれいであった、いつまでも起きてい

(2) 2

たいのむか明日の登山の事を考え寝床に入る、フトンを貸して下さったか突にむい足がむっかより破れた所がまっまっびりびり破れる、下のフトンは背中に当る所の綿が切れて居り背中がいたい、しばらくするとノミとカは襲われたボリボリやりながらいつの向にか浅いおむりに入った、朝、目がさめると「陸軍と空軍がむいかつたなぬ」と話し合っている、陸軍とはノミ、空軍とはカのことである花中に近藤さんばかりの採集をやったそうだが私は気がつかずかかった、朝食はハンゴウでたく垂になり水かけ人等心配しながら一本の木に六つのハンゴウをかけて燃したが木の枝がしめっていてなかなか火がつかぬ、ようやく勢いよく火が燃え始めた藁中の一つが早くも灰をいまだしすぐむいた、十分もかゝっていない、近藤さんのだしばかりして私達のも出来上がった、近藤さんのほろんでいなかった、他の人達のは上出来とはいえないがおいしいといいた、思い思いに昼食を作り菩提寺を頂上めむして出発した、途中木の生えたけわしい坂があった、勾配は40度はあろうか一歩前進二歩退きながら終於つかまつて登っていった、先頭は安東さん次に松井さん少しおくれで近藤さんと小野さん、後を追って井手さんと私の順で苦心しながらのぼった、やうやくの垂を根岩に出る霧か下から吹きあげて来るこゝで写真機を取り又登る途中井手さんと私は後にかくれてオナカアケハを追うたがだめだった、頂上につく、一面小さな「ささ」や草が生えて居りぬきぐると気持ちよい、近くの小、遠い山がきれいに見える何れ採るものがないので、罷んで来たキアケハ、ウラヤシヘウエと追ってトンドと走つたりした、岩を伝っている中学生達に出会った彼等(昆虫、植物の採集をやっていた、雲が低くなり霧がたちこめたのでおむたいしく昼食にする、すぐ降り始めた、道はおぼろがあまり人の通らぬうしい「ささ」の多く生えた道を通る、手や顔にさんざん傷をしながら降りていった、途中冷たい水が流れていた、氷にうえていた私達はのどを鳴しながら思う存分のんだ、そこにハユネサシミヨウウオウがいたので管びんに入れて持ち帰った、おとまた降りていったが途中で道をなくってしまった、安東さんが道をさかすため先に降りて下さった、下の方で水の音が

していたので大して心配はしなかつたものの山の中を迷う事はあまりいい気はしない。望東さんかしはらくしておまえに采て下さった感謝しながら降りて行つた。広い道に出ると近藤さんがのびてしまった。元気な人は牛の糞をくくり返している折手さんと私は先に歩いた。オカ采つていたので大きな声で歌を唄つたり走りこつことしながら菩提寺についた。夕飯の仕度にかゝる近藤さんにはオカエを(作)てあげる事になつた。朝にくらべて案にたけた。オカエは皆んな心配して水をどしたりして長い間かゝつて落ちた寺のラン下では懐中電燈をつるして豪華な夕食をいたした。近藤さんは「オカエ」といふながらほとんど全部をいらげたので私達はホットする昨夜の陸軍空軍の華があるので縁に出てお話をする怪談も出た昼間のつかれで床に入った相変らおぼしい陸空軍の疑念を怠けた。夜が明けた近藤さんは元気である今朝はお寺のはかまで反かせて(う)る事にして朝衣前にアオバビ(り)を採りに寺のまわりをまわつた。文書を楚い(う)せ(り)を手にした時はなだたふれしくなつた。朝食をすすると大事件があつた。例の「真夏の狂態」Vol.2 No.11 である。小野さんが変な顔をして「お水を取りに行かぬのか」とこそつて下さつた。私にはヒンと采たが行く気はしない。男の人達は各々順序をして採りに行つた。私は残つてリウリサウクをたづねていた。急にどせどせ帰つて来た。どうしたのかと尋ねると「頭の上のミシ(こ)音をしが和尚さんが分には(き)ている人ですかとしはれたので虫を採っている人ですぞは(き)つくりといつて(飛)んで来た」との事思ふ(き)ふ(き)出した「まだま(き)ないかな」と一人の(き)いて思う「お人だ(き)人だ」といつて又姿を消してしまつた和尚さんが采られて「なかな(き)熱心(き)な(き)ね」と妙な顔をして笑つていらつ(き)やる私も(き)あ(き)ず(き)る(き)打つた。滑(き)人(き)だ(き)ら(き)く(き)皆(き)は(き)愉(き)快(き)そう(き)に(き)帰(き)つて(き)采(き)て(き)その(き)処(き)程(き)を(き)して(き)いた。し(き)ば(き)らく(き)た(き)つ(き)て(き)私(き)達(き)は(き)エ(き)コ(き)ノ(き)リ(き)ュ(き)ウ(き)ク(き)カ(き)ウ(き)の(き)つ(き)めて(き)元(き)気(き)す(き)く(き)山(き)を(き)降(き)り(き)て(き)行(き)つた。途(き)中(き)で(き)近(き)藤(き)さ(き)ん(き)が(き)オ(き)ハ(き)ム(き)ラ(き)カ(き)キ(き)舎(き)と(き)つ(き)た(き)空(き)に(き)きれ(き)いた。し(き)ば(き)らく(き)その(き)何(き)れ(き)の(き)色(き)を(き)み(き)つ(き)めて(き)いた。幸福(き)感(き)に(き)お(き)た(き)つ(き)て(き)夕(き)飯(き)に(き)洗(き)わ(き)れた(き)那(き)岐(き)山(き)原(き)を(き)バ(き)ス(き)で(き)ゆ(き)ら(き)れ(き)ながら(き)帰(き)つ(き)て(き)い(き)つ(き)た。



おとしぶみ

豪湊のトンボ

2, 3について

最近、豪湊よりトンボの珍品を得たのでお知らせする。

① オジロサナエ

6月35日豪湊のかたり築(イダヤカミギリを得た所と同一ヶ所及トンネル前)で計3頭を得た。他にかなり多くの個体を発見したがすぐに向う岸に逃げて行くので採集はかなり困難であつた。個体は目撃したものの採集したものも全部羽化直後で弱々しく飛んでいた。採集物の内1頭は未だ翅ののびきっていないものだつた。8月25日にも目の出旅館の前でこれらしいものを1頭見た。非常に小さいため周囲の色にまぎれやすい。

② ムカシマンマ

6月25日豪湊に於て足元に飛来して静止したものをたやすく採集することが出来た。

③ ミヤマカワトンボ

6月25日豪湊で激頭目撃のみ1頭(♀)採集。時期が遅かつたから早く行けばまだ多数いるものと思う。

その他、8月25日にオナガサナエ2頭採集。激頭目撃。総社附近ではあまり見ないミヤマカワトンボが多い(奥には少ない)。去年は、ウスバキトンボを11月4日に見たがかなり遅いものではないかと思う。谷間に居つていて暖いためか。なお、オジロサナエの同定をして戴いた安原氏によれば、ダビドサナエ、クロサナエ等の発見の可能性もあるそうだ。

(水野弘造)

ナツアカネの羽化期間について

当作京地方に於ては *Sympetrum danwananum* SELYS は例年7月下旬に羽化し始め12月中旬迄その姿を見ることが出来るが、その羽化期間については未知であつた。昨1952年鎌倉の住居地附近の本種に注意していたところ9月下旬(詳しくは9月30日)に完熟個体に程じて羽化直後の個体が見られた。

狭い地域での観察であるが少くとも2ヶ月以上の羽化期間を有することを知つた。尚この時期に於け

おとしぶみ

トシボ類はオツネトシボ類を除いては既に成熟或は産卵期に入っている。

(安東瑞夫)

神庭のオナガサナエ

1948年6月23日、同志と共に
県下名勝、勝山町の神庭の池を訪

れた際、本種 *Onychogomphus viridicostus* OGUMA 1 羽を採集している。若干の記録はある(県下で)が、やはり比較的少ない種と思われるので一応記録として報告しておく。標本筆者保存。

(小野 洋)

訂正

Vol. 2, No. 4, p. 14 の私の文中、
間野氏の御名前をおやまして「間
野幹夫氏」としておりましたが「
間野洋男」と訂正して置きたい。
私の不注意で大変失礼な事をし
ましたが深くお詫言いたします。

(永野弘造)

正月の3月に 池田光宏氏
宛て 役員会が催され本会す
ずせし編集係 5 名と偶然未合
わした永野とでいろいろ同
題が討議され、「役員規約」を原案通
り可決、「会則改正案」をも作成可決
した。(編集 部)

編集後記

皆様、あけましておめで
とろごぞいます。今号も3
巻を迎え、益々元氣一ぱい
と云うところ。今月号は今
月編集担当者池田氏甚だ多
忙を極め、編集不能に陥つ
たのでとりあえず小生達が
引受けました。非常に簡素
にりましたが、悪からず

すずむし 第3巻第1号

昭和28年1月19日 印刷

昭和28年1月20日 発行

編集者 友野良一 小野 洋

印刷者 友野良一 小野 洋

発行所 倉敷市住吉町

岡山大学と原産業研究所

作物害虫研究室内

倉敷昆虫同好会